

(1993年11月26日設立)

英語語法文法学会 THE SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

事務局便り

No. 33

2018年4月11日

会長 大室剛志
事務局

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5 龍谷大学社会学部 五十嵐海理研究室内

tel.: 077-543-7436 (研究室) / fax. 077-543-7615 (社会学部教務課)

Email: segu.office@gmail.com

ウェブサイト: <http://segu.sakura.ne.jp> 郵便振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会

◆『英語語法文法研究』第24号刊行

『英語語法文法研究』第24号が2017年12月に刊行されました。第24回大会でのシンポジウム「Spoken EnglishとWritten Englishをめぐって」の論文3編のほか、4本の研究論文が掲載されています。

◆第26回大会開催案内

英語語法文法学会第26回大会を下記の要領で開催します。

日時：2018（平成30）年10月20日（土）

会場：立命館大学 衣笠キャンパス

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

<http://www.ritsumei.ac.jp/>

順路：

- JR・近鉄京都駅から
 - ・市バス50にて42分、快速205にて36分、「立命館大学前（終点）」下車
 - ・市バス205にて38分、「衣笠校前」下車、徒歩10分
 - ・JRバスにて30分、「立命館大学前」下車
- JR 円町駅から
 - ・市バス快速202/快速205にて8分、「立命館大学前（終点）」下車
 - ・市バス15にて10分、臨にて9分、「立命館大学前（終点）」下車
 - ・市バス204/205にて5分、「衣笠校前」下車、徒歩10分
 - ・JRバス 高尾・京北線にて8分、「立命館大学前」下車
- 阪急電車西院駅から
 - ・市バス快速202/快速205にて15分、臨にて17分、「立命館大学前（終点）」下車
 - ・市バス205にて13分、「衣笠校前」下車、

徒歩10分

■京阪電車三条駅から

- ・市バス12にて53分、市バス15にて34分、市バス51にて36分、「立命館大学前（終点）」下車
- 市バス59にて40分、「立命館大学前」下車

今回のシンポジウムは、「レトリックと英文法研究」をテーマとして準備中です。司会と各講師は以下の通りです。ご期待ください。

司会・講師：西田光一（山口県立大学）

講師：辻本智子（大阪工業大学）

講師：山添秀剛（札幌学院大学）

講師：後藤リサ（関西外国語大学）

[敬称略]

京都市内では宿泊予約の困難が予想されます。早めの宿泊予約ならびに近隣都市での予約をお勧めいたします。

◆第14回英語語法文法セミナー

標記セミナーを下記の要領で開催いたします。

※昨年度開催予定の第13回英語語法文法セミナーは台風5号の影響により開催中止となりました。第13回は「不開催年」として取り扱い、昨年度開催予定であった内容を第14回として開催いたします。ご了承ください。

日時：2018（平成30）年8月6日（月）

13時30分～17時30分

会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス 1004室

〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19

アプローズタワー10階

参加費：2,000円（資料代を含む）

今回のテーマは、『使える英文法:名詞をめぐる形と意味』です。司会と講師、各講師のタイトルは以下のとおりです。

- 司会(兼 講師) 中山 仁(福島県立医科大学)
「ものの見方・考え方に応じた名詞句の使い分けについて考える」
講師 大室剛志(名古屋大学)
「修飾との関係で名詞の意味の中身を探る」
講師 中澤和夫(青山学院大学)
「名詞句の内と外」
講師 佐々木一隆(宇都宮大学)
「文的名詞句の正確な解釈から効率的な表現法へ」

[敬称略]

参加ご希望の方は、件名を「セミナー参加希望」として segu.seminar@gmail.com までお申し込みください。申込み締め切りは7月31日(火)です。必要な方にはセミナー受講証も発行いたします。奮ってご参加ください。

◆第18回「英語語法文法学会賞」選考結果

初代会長故小西友七先生の寄付金を基金とした「第18回英語語法文法学会賞」(2016年4月1日～2017年3月31日までに出版された単行本が対象)について、今回は「該当者なし」という結果になったことが第25回大会(専修大学)において大室会長より報告されました。

◆第19回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第19回学会賞対象図書のご推薦を依頼いたします。(昨年度より**他薦に限る**こととなりました。)対象図書は2017年4月1日～2018年3月31日までに出版された単行本です。ただし、研究社より順次刊行されている『〈シリーズ〉英文法を解き明かす』全10巻(本ニューズレターの最終頁も参照)は本賞の対象とはなりませんので、ご注意ください。同封の推薦用紙に推薦図書、推薦理由を記入の上、**fax**あるいは郵便で**2018年5月10日**までに事務局宛にお送りいただくか、同一の内容をファイル **email** で事務局までお知らせください(〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5 龍谷大学社会学部 五十嵐海理研究室内 英語語法文法学会事務局 fax: 077-543-7729 email: segu.office@gmail.com)。

英語語法文法学会賞の授賞に関する規定

(授賞)

第2条 学会賞は、前年度4月1日から翌年3月末日までに、英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に対して、学会が設置する「英語語法文法学会賞委員会」(以下「委員会」という)の選考により、運営委員会の議を経て授賞する。

- 2 授賞は、原則として年度ごとに1件とする。
- 3 授賞式は年次大会において行う。

(関係部分一部抜粋)

◆第8回「英語語法文法学会奨励賞」選考結果

若手会員による英語の語法・文法に関する優れた論文に対して贈られる第8回「英語語法文法学会奨励賞」は、今回は「該当者なし」という結果になったことが第25回大会(専修大学)において大室会長より報告されました。

なお、第9回「英語語法文法学会奨励賞」は、本年7月10日締め切りの『英語語法文法研究』への応募論文がその対象となります。

英語語法文法学会奨励賞授賞規定

(授賞の対象)

第2条 奨励賞は、毎年7月10日を締切日とする。

『英語語法文法研究』への応募論文(研究論文に限る。シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く)を対象として、英語語法文法学会の趣旨に照らし、実証性・独創性・発展性に富む、優れた研究に対して授賞する。応募者は上記の締め切り日の時点で、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了10年以内の学会会員に限る。

(選考方法)

第3条 編集委員会が選考にあたり、運営委員会の議を経て決定する。奨励賞の授賞は、原則として年度ごとに1篇以内とする。

(選考結果の発表および授賞式)

第4条 翌年度の大会の総会にて行う。受賞者に対しては、賞とともに記念品を贈呈する。
(関係部分一部抜粋)

◆運営委員の交替

本年3月10日開催の運営委員会において、運営委員として以下の方の就任が承認されました(任期は2018年4月1日より2020年3月末日まで)。

金澤俊吾(高知県立大学)

[敬称略]

また、本年3月末日をもって、以下の方が運営委

員を退任されました。学会運営に対するこれまでのご尽力に心より感謝申し上げます。

大橋 浩 (九州大学) [敬称略]

なお、大橋先生には編集委員はご留任いただき、引き続き本学会にご協力いただくこととなります。

◆編集委員長の交替

中澤和夫先生(青山学院大学)が本年度末をもって編集委員長を退任されました。永年のご尽力に心より感謝申し上げます。後任として、吉良文孝先生(日本大学)が編集委員長に就任されることが本年 3 月 10 日開催の運営委員会において承認されました。

◆運営委員会委員

今年度の各委員会の委員長、副委員長、構成員は下記のとおりです(◎は委員長、○は副委員長)。

大会実行委員会

◎西田光一、○住吉 誠、滝沢直宏、林龍次郎、
中澤和夫、大竹芳夫、吉田幸治

セミナー委員会

◎牛江一裕、○澤田茂保、梅咲敦子、金澤俊吾
[敬称略]

◆第26回大会研究発表者募集

第26回大会での「研究発表」の発表者を募集します。会員の方は、下記の研究発表応募規定にしたがい、事務局宛(segu.office@gmail.com)に奮ってご応募下さい。

<研究発表応募規定>

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
2. 発表時間は 25 分以内 (別に質疑応答が 10 分) とする。
3. 応募者は、下記①-④の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。
 - ① 発表要旨 (MS Word ファイル、あるいは PDF ファイル) : A4 判 32 字×25 行 (フォントは和文 MS 明朝、英数 Century で文字の大きさは 10.5 ポイント) で、本文と注を含めて 4 枚以内とする。ただし、参考文献は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、名前・所属は記入しないこと。
 - ② 応募者情報 (MS Word ファイル、あるいは PDF ファイル) : 発表題目、氏名 (ふりが

な)、所属・職名 (学生会員の場合は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、fax 番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。

- ③ 発表要旨 (書類) : ①と同じ内容を印刷したものを 1 部。
 - ④ 応募者情報 (書類) : ②と同じ内容を印刷したものを 1 部。③とは別紙に印刷すること。
4. 上記①②は email に添付し、英語語法文法学会事務局宛(segu.office@gmail.com)に送信する。件名は「研究発表応募」とする。
上記③④は封筒の表に「研究発表応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局宛 (〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5 龍谷大学社会学部 五十嵐海理研究室) に送付する。
 5. 応募締め切りは 7 月 25 日 (水) (必着) とする。
 6. 選考結果は 8 月中旬までに通知する。
 7. 採用者は発表要旨 (500 字以内) を 8 月 21 日 (火) までに、予稿集の原稿を 9 月 24 日 (月) までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。
(2014 年 3 月 8 日 改定)

[事務局からのお願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

◆第 26 回大会語法ワークショップ発表者募集

第26回大会の「語法ワークショップ」の発表者を募ります。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその語・構文の統語上、意味上、あるいは語用論上の特性を明らかにすることを目的とします。語法ノートの的なもので結構ですから、会員の方は下記の語法ワークショップ応募規定にしたがい、事務局宛に奮ってご応募ください。

<語法ワークショップ応募規定>

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
2. 発表時間は 12 分以内 (別に質疑応答が 5 分) とする。
3. 応募者は、下記①-④の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。

- ① 発表要旨 (MS Word ファイル、あるいは PDF ファイル) : A4 判 32 字×25 行 (フォントは和文 MS 明朝、英数 Century で文字の大きさは 10.5 ポイント) で、本文と注を含めて 4 枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、名前・所属は記入しないこと。
 - ② 応募者情報 (MS Word ファイル、あるいは PDF ファイル) : 発表題目、氏名 (ふりがな)、所属・職名 (学生会員の場合は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、fax 番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。
 - ③ 発表要旨 (書類) : ①と同じ内容を印刷したものを 1 部。
 - ④ 応募者情報 (書類) : ②と同じ内容を印刷したものを 1 部。③とは別紙に印刷すること。
4. 上記①②は email に添付し、英語語法文法学会事務局宛 (segu.office@gmail.com) に送信する。件名は「語法ワークショップ応募」とする。上記③④は封筒の表に「語法ワークショップ応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局宛 (〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5 龍谷大学社会学部 五十嵐海理研究室内) に送付する。
5. 応募書類の提出期限は **7 月 25 日 (水) (必着)** とする。
6. 選考結果は 8 月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨 (500 字以内) を 8 月 21 日 (火) までに、予稿集の原稿を 9 月 24 日 (月) までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。
- (2014 年 3 月 8 日 改定)

[事務局からのお願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

【応募上の注意】

研究発表と語法ワークショップの両方に同時に応募することはできません。
また、二重投稿はご遠慮ください。

◆『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』(第 25 号)への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は

現代英語の語法および文法研究に資する内容のもので未発表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

近年インターネット上の用例を使用されている投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いいたします。

なお、本規程の第 5 項以下が 2015 年 8 月の編集委員会・運営委員会で大幅に改訂されておりますので、ご確認をお願いいたします。

<『英語語法文法研究』(第25号)の論文・語法ノートへの投稿規定>

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。
3. 投稿締め切りは**7月10日(必着)**、採否決定を8月中旬、刊行を12月とする。
4. 論文の場合、長さは 34 文字×31 行、16 枚以内とする。語法ノートの場合、長さは 34 文字×31 行、6 枚以内とする。
5. 投稿者は、下記①②のファイルと③④のハードコピーを用意する。
 - ① 論文・語法ノートの原稿 (MS Word ファイルまたは PDF ファイル)。冒頭には論文題名のみを記し、名前・所属は記入しないこと。ファイルの情報として作成者名を残さないこと (ファイルの「プロパティ」等を確認し、必ず作成者名を削除するか匿名にする)。
 - ② 執筆者情報 (MS Word ファイルまたは PDF ファイル)。論文題名、氏名 (ふりがな)、所属、連絡先の郵便番号と住所、電話番号、fax 番号、email address を明記する。なお、投稿論文が奨励賞の審査対象となることを希望する場合は、必ず、当該年度の投稿論文応募締切時点での年齢と、大学院修士課程あるいは博士前期課程を修了した年月 (または在籍中ならばその旨) を、このファイルに明記すること。(奨励賞は、39 歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了 10 年以内の学会会員に授与されます。)
 - ③ 論文・語法ノートの原稿 (ハードコピー)。①を A4 用紙に印刷した紙媒体の原稿 1 部。
 - ④ 執筆者情報 (ハードコピー)。②を A4 用紙に印刷した紙媒体の別紙 1 部。
6. 入力に関しては、特に以下の点に留意すること。

- a. 投稿の段階では原稿に謝辞を入れない。
 - b. 例文の前後に1行ずつ空白行を設ける。
 - c. 各節には見出しをつけ、節の前に1行ずつ空白行を設けること。
 - d. 外字、機種特有の文字・記号は使用しないこと。
 - e. 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
 - f. 2桁以上の数字は半角を用いる。
 - g. 小説・論文の出典は下のように表記する。
(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)
 - h. 注は脚注とする。
 - i. 上記以外は既刊号の論文を参考にする
7. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。
- Hopper, P.J. 1979. "Aspect and Foregrounding in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and Semantics* 12, 213-241. New York: Academic Press.
- 柏野健次. 1993. 「easy タイプの形容詞の3つの意味」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二(編)『英語基礎語彙の文法』145-154. 東京: 英宝社.
- 小西友七. 1976a. 『英語の前置詞』東京: 大修館.
- 小西友七. 1976b. 『英語シノニムの語法』東京: 研究社.
- Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235-289.
- 村田勇三郎. 1979. 「Functional Sentence Perspective」『英語青年』第125巻第3号, 20-21.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- van der Leek, F. 1996. "The English Conative Construction: A Compositional Account." *CLS* 32, 363-373.
8. 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
 9. 著者校正は1回とし、変更は字句の修正のみとする。
 10. 原稿料は支払わない。
 11. 応募書類の提出先。第5項の①と②のファイル (MS WordまたはPDF) はemailに添付して、編集委員長宛にemail (segu.paper@gmail.com) で送ること。なお、件名を「投稿」とすること。第5項の③と④の紙媒体の原稿と執筆者

情報(別紙)は、編集委員長宛*に郵送すること(「投稿論文在中」と朱記)。

*〒156-0045 東京都世田谷区桜上水3-25-40
日本大学文理学部 吉良文孝

(2015年8月4日改定)

【応募上の注意】
研究発表との二重応募、他学会の機関誌との二重投稿はできません。

◆英語語法文法学会第25回大会

英語語法文法学会第25回大会は2017年10月21日(土)に専修大学にて開催され、語法ワークショップ、研究発表、シンポジウムが行われました。多数の参加者があり、活発な議論が行われました。司会を務めて下さった都築雅子先生、五十嵐海理先生に感謝申し上げます。また、開催校委員の濱松純司先生、開催校協力委員の牛江一裕先生、林龍次郎先生、専修大学の学生・院生の方々にもお礼を申し上げます。なお、開催校の専修大学からは、本大会開催に伴い補助金を頂きました。ここに記して感謝致します。

語法ワークショップ 10.30 - 11.38

(1号館2階204)

司会 住吉 誠 (摂南大学)

1. 「Doyle, C.の作品資料に基づく、'help', 'aid', 'assist'の語法上の段階性」
渡邊丈文 (元・青山学院大学非常勤)
2. 「because に課される2つの制約について」
大野真機 (昭和大学)
3. 「後位修飾語 combined の語法」
中澤和夫 (青山学院大学)
4. 「あいまい構文 It is that ...の本質」
八木克正 (関西学院大学名誉教授)

研究発表 13.00 - 14.45

第1室 (1号館2階204)

司会 都築雅子 (中京大学)

1. 「他動詞 eat が目的語を省略すべきとき: 有標形を支える原理」
西脇幸太 (岐阜県立岐阜北高等学校)
2. 「I played a role in translating Japanese into English.の in は脱落する」
桑名保智 (旭川医科大学)
3. 「動詞 visit の意味と位置づけ」
出水孝典 (神戸学院大学)

第2室 (1号館2階203)

司会 五十嵐海理 (龍谷大学)

1. 「un-sad 類の空白とその動機づけ」
萩澤大輝 (神戸市外国語大学大学院)
2. 「クジラ構文」に見られる条件性と対偶解釈読み」
廣田 篤 (金沢大学大学院)
3. 「実現を含意する not (...) until の用法」
明日誠一 (青山学院大学非常勤)

シンポジウム 15.35 – 17.45

(1号館3階302)

テーマ「英語の文をつなぐ接続現象」

司会 大竹芳夫 (新潟大学)

1. 「文をつなぐ」仕組みと「文をつながない」仕組み」
大竹芳夫 (新潟大学)
2. 「談話標識がつなぐもの」
松尾文子 (札幌保健医療大学)
3. 「話し手の「心」を伝える文のつなぎ方」
安井 泉 (筑波大学名誉教授)

懇親会 18.00 – 19.30

1号館15階ホール

◆2017年度新入会員紹介

以下の方々が新しく本学会に加入してくださいました。どうぞよろしくお願ひ致します。
(50音順。掲載希望者のみ。)

市川 真矢 (常葉大学短期大学部)

坂本 暁彦 (常磐大学)

島本 慎一郎 (日本大学)

櫻井 啓一郎 (松山大学)

田金 雄一 (国際教養大学)

出縄 貴良 (了徳寺大学)

徳永 和博 (立命館大学大学院研究生)

中村 良夫 (横浜国立大学)

浜田 啓志 (杏林大学非常勤講師)

廣田 篤 (金沢大学大学院)

真栄里 孝也 (一般社団法人日本翻訳連盟)

[敬称略]

◆年会費納入のお願い

2013年4月1日より年会費が変更され、「一般会員」は5,000円、「学生会員」は4,000円となっております。つきましては、2018年度 (2018年4月～2019年

3月) 会費を同封の郵便払込取扱票でお支払いください。申し訳ありませんが、払込手数料は各自ご負担ください (郵便振替料金は120円 (ATMからは80円) です)。金額欄が10,000円または8,000円になっている方は、昨年度分年会費が未納ですので、併せて納入くださいますようお願いいたします。会費が2年連続して未納の場合は、会員資格が失効いたします。「学生会員」は郵便払込取扱票の通信欄に住所・氏名に加えまして、「在籍大学院名」もご記入ください。なお、学会からの配布物を確実にお手元にお届けするために、住所・所属に変更や異動のある方は、新住所・所属を郵便払込取扱票通信欄に明記いただくか、英語語法文法学会のウェブサイト (<http://segu.sakura.ne.jp/>) の「登録情報の変更」連絡用フォームにて事務局までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

◆新刊書紹介

大室剛志. 『概念意味論の基礎』 (開拓社 言語・文化選書 67). 東京: 開拓社. 2017年6月

滝沢直宏. 『ことばの実際2 コーパスと英文法』 (「くシリーズ」英文法を解き明かす—現代英語の文法と語法) 10. 東京: 研究社. 2017年9月

赤野一郎・堀正広編. 『コーパスと多様な関連領域』 (英語コーパス研究シリーズ 第7巻). 東京: ひつじ書房. 2017年9月

中邑光男・山岡憲史・柏野健次 編集主幹. 『ジニアス総合英語』. 東京: 大修館書店. 2017年10月

須賀あゆみ. 『相互行為における指示表現』 (ひつじ研究叢書 (言語編) 第143巻). 東京: ひつじ書房. 2018年1月

後藤リサ. *Rhetorical Questions: A Relevance-Theoretic Approach to Interrogative Utterances in English and Japanese.* (Hituzi Language Studies No.3). 東京: ひつじ書房. 2018年2月

出水孝典. 『動詞の意味を分解する—様態・結果・状態の語彙意味論—』 (開拓社 言語・文化選書 71). 東京: 開拓社. 2018年3月

澤田治美. 『意味解釈の中のモダリティ (上)』 (開拓社 言語・文化選書 72). 東京: 開拓社. 2018年3月

澤田治美. 『意味解釈の中のモダリティ (下)』 (開拓社 言語・文化選書 73). 東京: 開拓社. 2018年3月

編集後記

2016年4月より二年間事務局を担当させていただきましたが、2018年度は五十嵐海理先生に事務局を担当していただくこととなりました。五十嵐先生、よろしくお願いたします。

近年、パソコンを代表とする電子機器の普及により、扱うことができる言語データの量は指数的に増加しました。無料で利用できるWeb上の各種コーパスにも多種多様なものがあり、かつてのように「用例カード」をコツコツと作成し、データの整理分類を行うという研究者は減少の一途をたどっているように思われます。また、様々な言語理論が提唱され、世界中の優秀な研究者によって理論の精緻化も推進されています。

しかし、言語研究が「言語事実の記述に始まり言語事実の記述に終わる」ということは今も不変のように思われます。どのようなデータを集め、集めたデータに対してどのような処理・考察を行うかという点に関しても、依然として人間による判断と人間による作業が中心となっています。

英語語法文法学会の役割はこうした判断と考察が行える研究者の発表の場であると同時に、参加者各位が切磋琢磨し合える場として存在し続けることを確信しております。

2017年度も大過なく事務局運営を終えることができました。関係者の方々に感謝するとともに、引き続き、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

(2018年4月11日 吉田幸治)